

参加者募集中の講座・教室のご案内

親子で楽しむ「こども森の写真教室」参加者募集

写真家の先生を講師に招き、撮り方のレクチャーから楽しく学べる森の写真教室を開催！
普段は非公開の林業研究所内の森を探検し、発見をカメラに収めよう。

- 日時 7月29日(日)10:00～13:00
- 場所 三重県林業研究所(津市白山町二本木3769-1)
- 講師 写真家 松原豊氏
- 定員 小中学生がいる家族15組30名(先着順)
- 締切 7月17日(火)まで
- *詳細・応募はサポートセンターへお問合せください



昨年度開催した「写真教室」の様子



～お知らせ～ 「第5回みえの森フォトコンテスト」の作品を募集します！

「三重の森林」をテーマとして、「森林や木」、「森林や木と人とのふれあい」などについて表現した作品を募集します。
カメラを持って森へ行こう！

募集期間…6月4日(月)～

10月14日(日)まで

応募対象…県内在住の18歳までの方

*詳細・応募はサポートセンターまで。

第4回コンテスト〈最優秀賞作品〉



「雪景色」
昂学園高等学校2年 浮田 竜成さん



「かいじゅう」
松阪市立柿野小学校1年 橋本 華歩さん

イベント開催のお知らせ

木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」

7～8月は県立総合博物館(MieMu)に初登場！

「森の学校」も同時開催！



三重の木でできたボールプール「もりぼーる」など、木の遊具やおもちゃが出張！ぜひ、お子様連れでご参加ください。

「森の学校」では森のせんせいが木や森にまつわるお話や木工や草木染めなど楽しみながら森林や木、生きものについて学べます。(事前予約制。7月上旬から募集予定。)



〈ミエトイ・キャラバン〉

- 日時 7月7日(土)～9月2日(日)10:00～16:00
- ※月曜日(祝日の場合は翌日)休館日

- 会場 三重県総合博物館(MieMu) 2F 交流展示室内
(津市一身田上津部田3060)

〈森の学校〉

- 日時 7月14日(土)～8月26日(日)の期間中の19日間
- ※日によって内容・時間は異なります。
- 詳細は当センターまでお問合せください。

- 会場 三重県総合博物館(MieMu) 1F～3F



MORI DUKURI NEWS 2018.6

拡大号

TOPICS /

「指導者養成講座」をはじめたい方へ 森林環境教育をはじめたい方へ



受講生が実技をしている「技術編」2日目の様子



エゴノキの花とオトシブミの挿簍(ようらん)

自然観察を通して人と自然をつなぐ伝え方を学ぶ「技術編」と 座学と見学で森林の現状を学ぶ「知識編」の2講座3日間で開催



昨年度開催した「知識編」の様子

5月19日(土)と5月27日(日)の2日間の日程で、三重県上野森林公園にて「森林環境教育指導者養成講座[技術編]」を開催しました。この講座は森林の魅力伝えたい方などを対象に初心者から参加できる内容の講座の一つです。初日には、講師の木村京子氏(三重県環境学習情報センター 副センター長)よりインタプリテーション(自然と人をつなぐ技法の一つ)とは何かを学び、2日目は受講生が実践し、理解を深めました。

6月2日(土)には、三重大学平倉演習林で三重大学の沼本晋也准教授に森林の多面的機能などの座学を受講後、実際に演習林内を歩いて人工林や天然林などの様子や産学官の調査現場を見学します。

県内で行われる森林環境教育や木育の 活動事例集を発行しました

三重県の学校などでは、森林や木について学習する様々な活動が行われています。それらの取組の内、平成29年度に行われたものをまとめた「森林環境教育・木育 活動事例集」を発行しました。森林内での林業体験から教室での木工体験まで、学校などから提供いただいた情報を取りまとめた一冊です。教育活動に取組まれる皆様の今後の活動の参考にしていただければ幸いです。

お問い合わせはサポートセンターまで。



発行：三重県 編集：みえ森づくりサポートセンター
TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp
web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

— pick up —

森づくり活動団体 「山造り研究所」 (いなべ市)



みえ森づくりサポートセンターには、森林や木育に関するさまざまな知識や技術を持った方々が森のせんせいや森づくり活動団体として登録されており、県内各地域で森林環境教育・木育活動や森林整備活動を行ってまいります。今回は、森づくり活動団体の方達は、日頃地域でどのような活動をされているのか取材してみました。この「pick up」コーナーでは、森づくり活動団体の活動を紹介していきます。

【山造り研究所 の設立】

命あふれる豊かな山と森を取り戻すため、いなべ市の山林（ヒノキやスギなどの人工林）を中心に山の手入れに困っている素人山主さんに寄り添いながら、山林の調査から間伐～搬出～木づかいまで一連の作業を山主さんと共に、たのしく山づくりをしている任意団体。活動しながらさまざまな塾やプロジェクトを展開されています。2015年1月1日設立。代表者は鬼頭志朗氏。2016年7月に森づくり活動団体に登録。
鬼頭氏は、1999年に“きこり”の道に目覚め、山造りや山仕事を現場で実践的に積み上げ、満を持して山主さんに寄り添い支援する“山守り林業”を始めました。山造りの『心』と山仕事の『技』、そこから繋がって出来た仲間の絆を大切にしながら取り組まれています。

《いなべ山造り塾 の開催》2016年9月～

素人山主さんが抱える持ち山の管理に関する5つの孤独な悩みを一緒になって解決する楽しい山づくりを学びあう講座や講習会を毎年開催。山主さん同志や森林ボランティア交流も深めていく場となっています。

- ・山を知る → GPS やスマホアプリで場所や境界の明確化
- ・森をデザインする → 森の健康診断
- ・森を手入れする → 全国の林業トッププロから間伐・伐倒の安全技術や道具の手入れなどの本物を学ぶ
- ・山の資産価値を把握 → 山の棚おろし
- ・木づかいと売り方、商品化 → 木の駅プロジェクト

これらの山造りの手法をパッケージ化して使えるようにしています。



2018年2月14日に東京で林野庁主催の「森林・山村多面的機能発揮対策事業」セミナーで活動の発表会があり、山主さんたちが山の手入れをしていくうちに、山に対する想いが大きく変化してきたことなどを発表。

《木の駅プロジェクト の始動》2017年9月～



木の駅「いなべ木の駅 龍華驛（りゅうげえき）」始動。北勢地域初、県内で7箇所目。その実行委員を立ち上げて盛り立てているのが山造り研究所代表の鬼頭氏。2015年に山造り研究所を設立し、「いなべ山造り塾」という学びと実践と人のつながりの場を作っていく中で、木の駅プロジェクトが、地元の林業の活性化と地域起こし、循環型社会の一つの理想的な仕組みとして地域で受け入れられて始動しています。

いなべ木の駅 龍華驛の特徴：

- ・木の買い取りに補助金などの上乗せに頼らない自立した活動。全国でも先進的。
- ・出荷された間伐材の利用価値を高めている。例）組手什（くでじゅう）。
- ・地域河川流域の環境整備と木の利用循環役を果たす。



《員弁きこり塾 の始動》2018年4月～



木の駅プロジェクトが始動して、山主さん達がいなべ木の駅 龍華驛に出荷していますが、山主さんの高齢化に伴い、間伐や搬出作業が難しく、今後、出荷が減少していく傾向が予想されます。その山主さん達を若者が応援しようと、「員弁きこり塾」が立ち上がりました。山をお借りして活動し、山主さんと若者たちの交流の場になっています。ここで学び、技術を身につけた後は、いなべ市内の山主さんの山へ手入れのお手伝いに入ります。

「きこり塾」… 愛知県豊田市足助町の「足助きこり塾」が2001年活動開始。鬼頭氏は当初からここで林業研鑽し、今回「員弁きこり塾」を始動。

《小学校での森林環境教育》2017年6月～

平成29年度からいなべ市立阿下喜小学校で、総合的学習の一環として森林環境を学ぶ授業「森の健康診断」を実施。いなべ市初の取組。児童達は人工林の森を科学的に調べ、間伐も体験。その意味と必要性を学び、地元の林業が抱える課題や間伐材の利用方法などを考えました。

この授業を受けた小学5年生24人は、その成果を地元や保護者の前で報告。県主催の「みえ子ども森の学びサミット」で自分達が学んで探究し、発見した事などを発表。（2017年12月3日）



「木の駅プロジェクト」とは？

間伐材を地域通貨で買い取って、森林の再生を目指すプロジェクト。高知県仁淀川町での取組を原型に全国どこでも実施できるように標準化し、2009年に岐阜県の恵那市で始まる。その後、全国的に広まり、現在全国で120箇所ほど始動。

全国木の駅サミット…2012年から毎年開催。第1回は恵那市、昨年度は愛知県岡崎市で開催。いなべ木の駅 龍華驛も初参加し、発表。（2017年3月3日～3月4日）



「いなべ木の駅 龍華驛」の歩み

2017年9月から社会的実験として、山主さんを出荷者として募集し、山と森と地域を元気にするプロジェクト。軽トラとチェーンソーで気軽に山に入って手入れをして、切った木を木の駅へ運び込み、地元で使える地域通貨「モリ券」と交換して、そしてご褒美の晩酌を…

- 2017/2/18 山主さんを集めた講習会「木の駅ごっこ」を体験。準備会が作られる。
- 5/21 木の駅実行委員会の発足。
- 5/30 「組手什おかげまわし協議会東海」に仲間入り。
- 9/2 いなべ市木の駅龍華驛キックオフ式典開催。木の駅プロジェクトの始動。
- 2018/3/3 龍華驛土場に事務所として、板倉造りの方丈庵を素人達で建設。
- 4/15 社会実験プロジェクトの第一回結果報告会を開催。



〈いなべ木の駅 龍華驛の仕組み〉

「組手什（くでじゅう）」とは？



鳥取、宮城、栃木、福島、東京、神奈川、滋賀、愛知で生産、試作、展開されている組立式の木製品。長さが調整でき、箱や椅子から住宅まで自由自在なものが作成可能。建具技術の胴縁（どうぶち）を活かして生まれた製品。

東北や熊本の震災でも仮設住宅として活躍し、震災後は保育所の木育用にも活用。東京・大阪の大企業でも販売中。

- ・いなべ産組手什…桑名のワークショップでデビュー（2017年7月9日）。いなべの山づくりで出したスギとヒノキの間伐材使用。
- ・組手什おかげまわし…製品に関係した人たちみんなの「おかげ」がぐるぐると日本の社会に回る仕組みのこと。

〈関連本の紹介〉

- ① 『みえの木と暮らす DIY キット』
三重の木で作られた DIY キットの販売用冊子。
三重県農林水産部 森林・林業経営課 発行
- ② 『森の健康診断の10年』
矢作川森の健康診断実行委員会 編
東京大学大学院農学生命科学研究科
附属演習林生態水文学研究所 発行
- ③ 『木の駅』
丹羽 健司 著
全国林業改良普及会 発行